

# 全員参加のまちづくり

宝達志水町男女共同参画に関する町民意識調査  
概要版



令和3年3月

宝達志水町

## I 調査の概要

### 1 調査の目的

この調査は、男女共同参画についての町民の意識を把握し、今後の男女共同参画行政を推進するための基礎資料とすることを目的としています。また、令和2年度に策定した「第4次宝達志水町男女共同参画行動計画」の検討及び今後の男女共同参画を推進していくうえで、貴重な資料として活用していきます。

### 2 調査の項目

- (1) 男女の地位の平等 ……………2 (4) 女性の社会参画……………13
- (2) 家庭生活等…………… 4 (5) ドメスティック・バイオレンス(DV)等…15
- (3) 職業…………… 8 (6) 男女共同参画社会の実現に向けて……………19

### 3 調査の設計

- (1) 調査対象：町内在住の満18歳以上の男女1,000人
- (2) 標本数：1,000人+町広報、ホームページ、町公式フェイスブック、安心ほっとメールを見て調査に興味を持った人
- (3) 抽出方法：住民基本台帳から無作為で抽出
- (4) 調査方法：郵送による配布・回収及びWEB回答方式
- (5) 調査期間：令和2年8月1日(土)～8月17日(月)
- (6) 回収状況：450通(郵送回収数351、WEB回収数99)回収率：45%

【当調査結果における「全体版」について】

○当調査結果の「全体版」については、下記ホームページに掲載しております。

<https://www.hodatsushimizu.jp/soshiki/shogaigakushuka/16/3978.html>

## II 調査結果の概要

### 1 各調査項目の概要

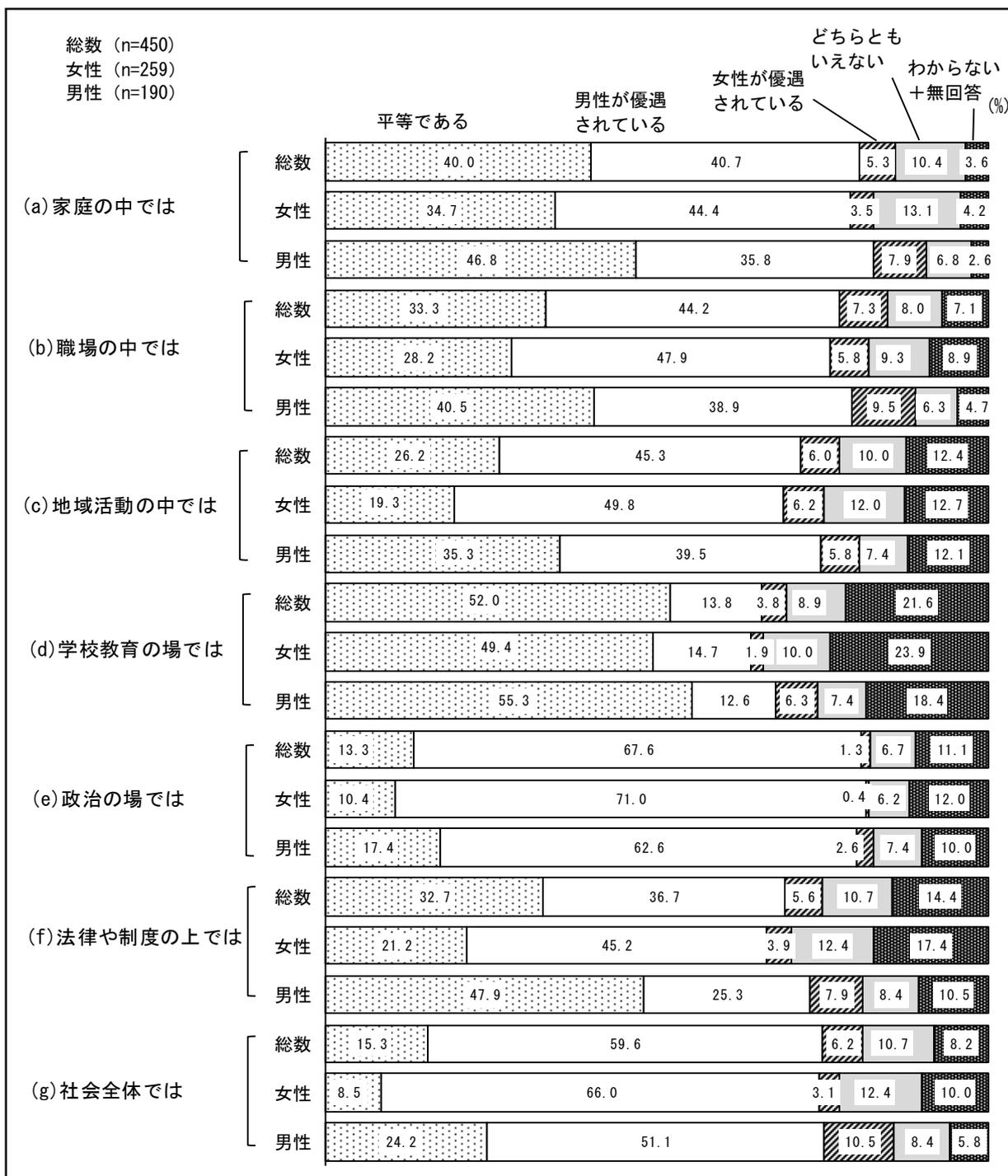
- (1) 男女の地位の平等感は「学校教育の場」で最も高く、「政治の場」「社会全体」においては男性優遇と感じている割合が高いです。……………2
- (2) 「男は仕事、女は家庭」という考え方に対して、女性も男性も『賛成しない(計)』が『賛成である(計)』を上回っています。……………4
- (3) 女性が管理職に昇進することについて、全体の8割近くが『賛成である(計)』となっています。……………8
- (4) 女性が方針決定の場に参画するために必要なことは「さまざまな立場の人が参加しやすいよう活動時間帯を工夫すること」「地域活動のリーダーは男性が務めるという性別による役割分担意識を改めること」が上位となっています。……………13
- (5) 配偶者からのDVの被害経験は「身体的暴行」「心理的攻撃」が上位を占めています。……………15
- (6) 男女共同参画社会の実現のために、「子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスを充実する」「学校などで男女共同参画の理解を深める教育・学習を充実する」が行政に対して望まれています。……………19

## 2 各調査項目の具体的な内容

### (1) 男女の地位の平等

#### ■各分野での男女の地位の平等

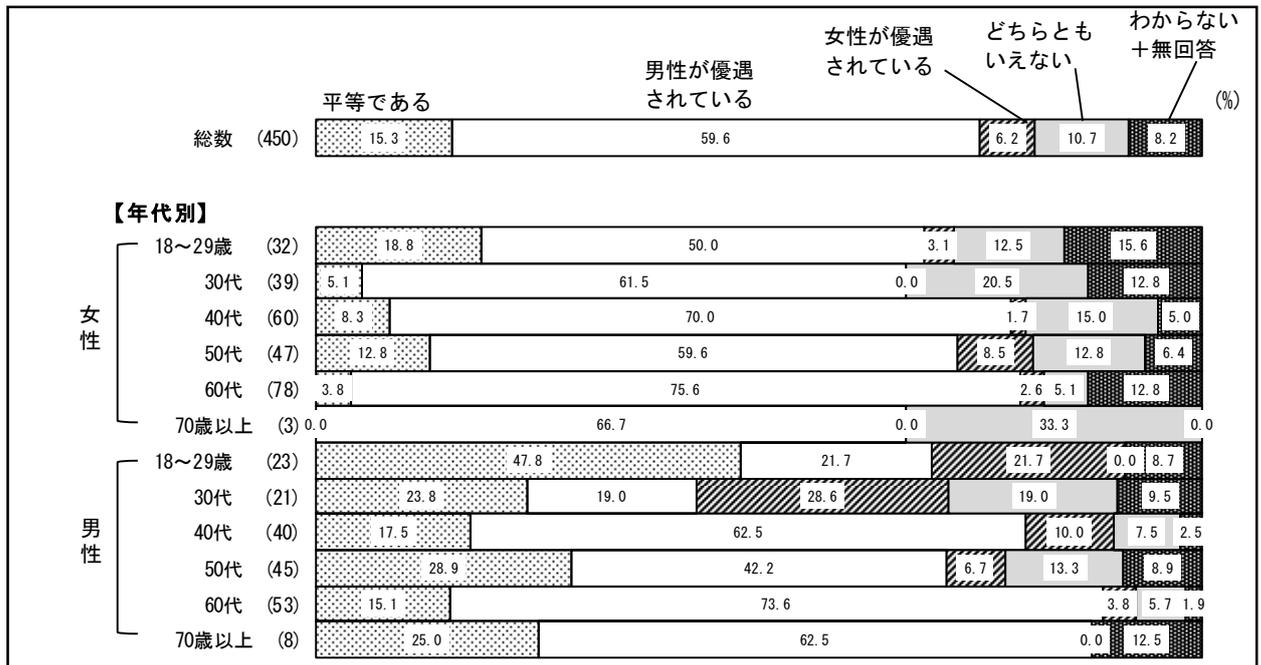
「平等である」と回答した割合が最も多いのは、「(d) 学校教育の場」では52.0%（女性49.4%、男性55.3%）、次いで、「(a) 家庭の中」では、40.0%（女性34.7%、男性46.8%）と続きます。



※『男性が優遇されている』は、調査票選択肢の「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合計したもの。  
『女性が優遇されている』は、調査票選択肢の「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」を合計したもの。以降の頁も同様。

また、「(g) 社会全体」の結果を年代別に見ると、「平等である」と回答した人は女性より男性の方が多く、特に18～29歳の男性が47.8%と最も多くなっています。

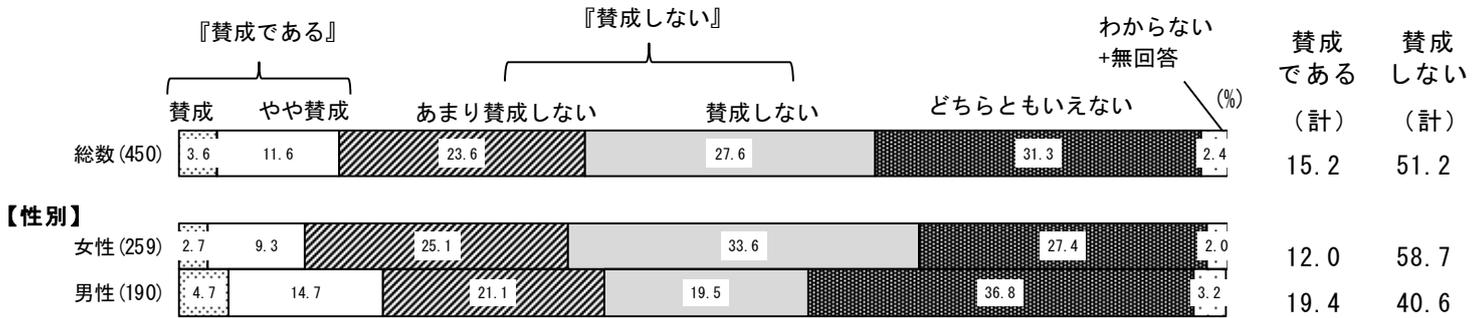
(g) 社会全体では (年代別)



## (2) 家庭生活等

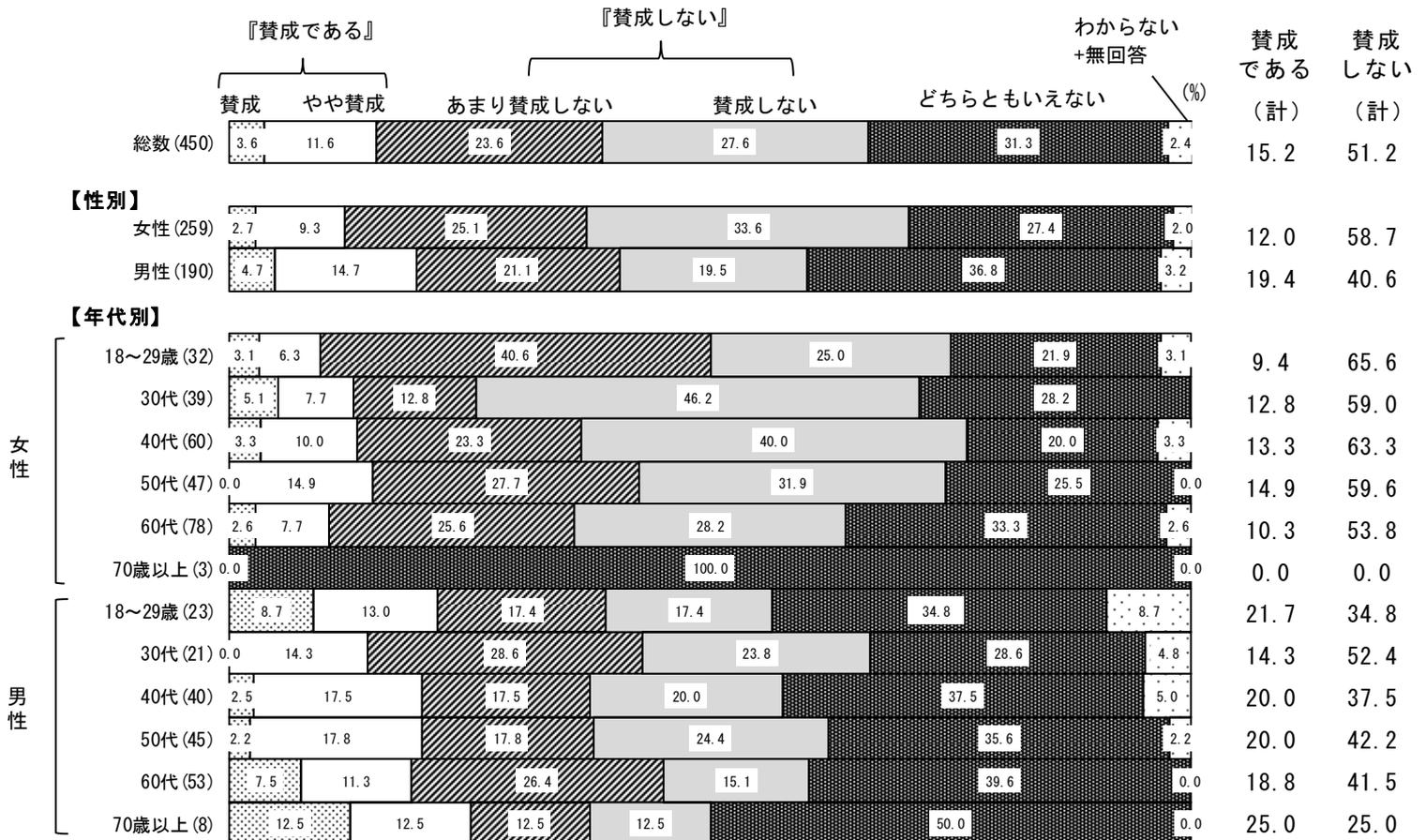
### ■「男は仕事、女は家庭」という考え方

女性も男性も『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回っています。



結果を性別・年代別に見ると、『賛成しない（計）』の割合は男性の年代別に差が見られます。30代における『賛成しない（計）』の割合が最も高くなっています。

#### (性別・年代別)

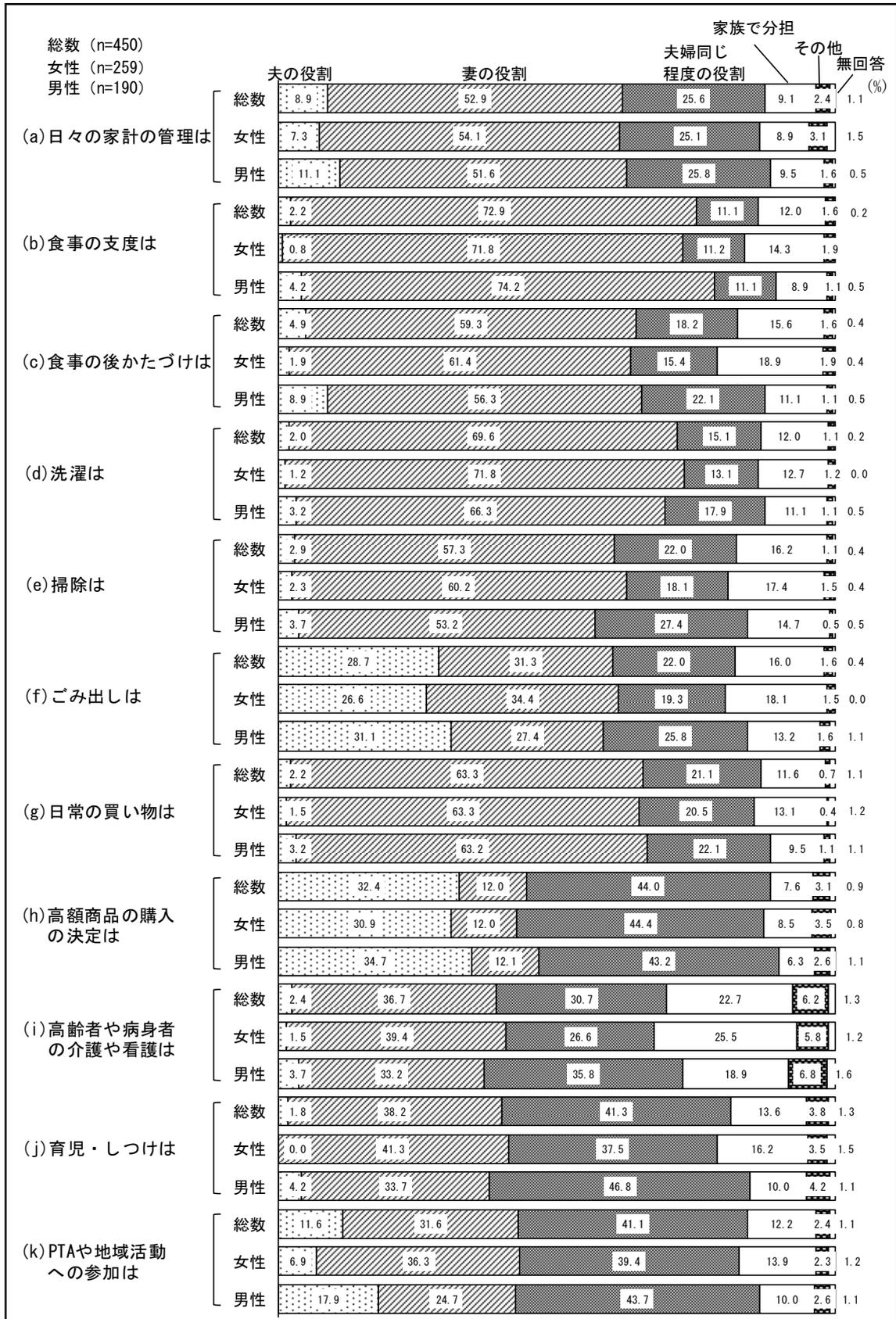


#### □男女共同参画に対する意識と現実のギャップについて

女性も男性も「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成しない人の割合が多く、男女平等の意識が浸透していることが分かる一方で、家庭における役割分担では、妻の役割が圧倒的に多く、また、親が期待する子どもの姿は、男女ごとに大きく異なっているのが現実です。男女共同参画に対する意識と現実の間には、大きなギャップが存在することが調査結果から分かります。

## ■家庭における役割

「妻の役割」と回答した割合が最も多いのは、「(b) 食事の支度」(72.9% (女性 71.8%、男性 74.2%)、次いで、「(d) 洗濯」(69.6%)、「(g) 日常の買い物」(63.3%)と続きます。「夫婦同じ程度の役割」の割合が高いのは、「(h) 高額商品の購入の決定」(44.0%)、「(j) 育児・しつけ」(41.3%)、「(k) PTAや地域活動への参加」(41.1%)の順となっています。



## ■子どもの教育方針

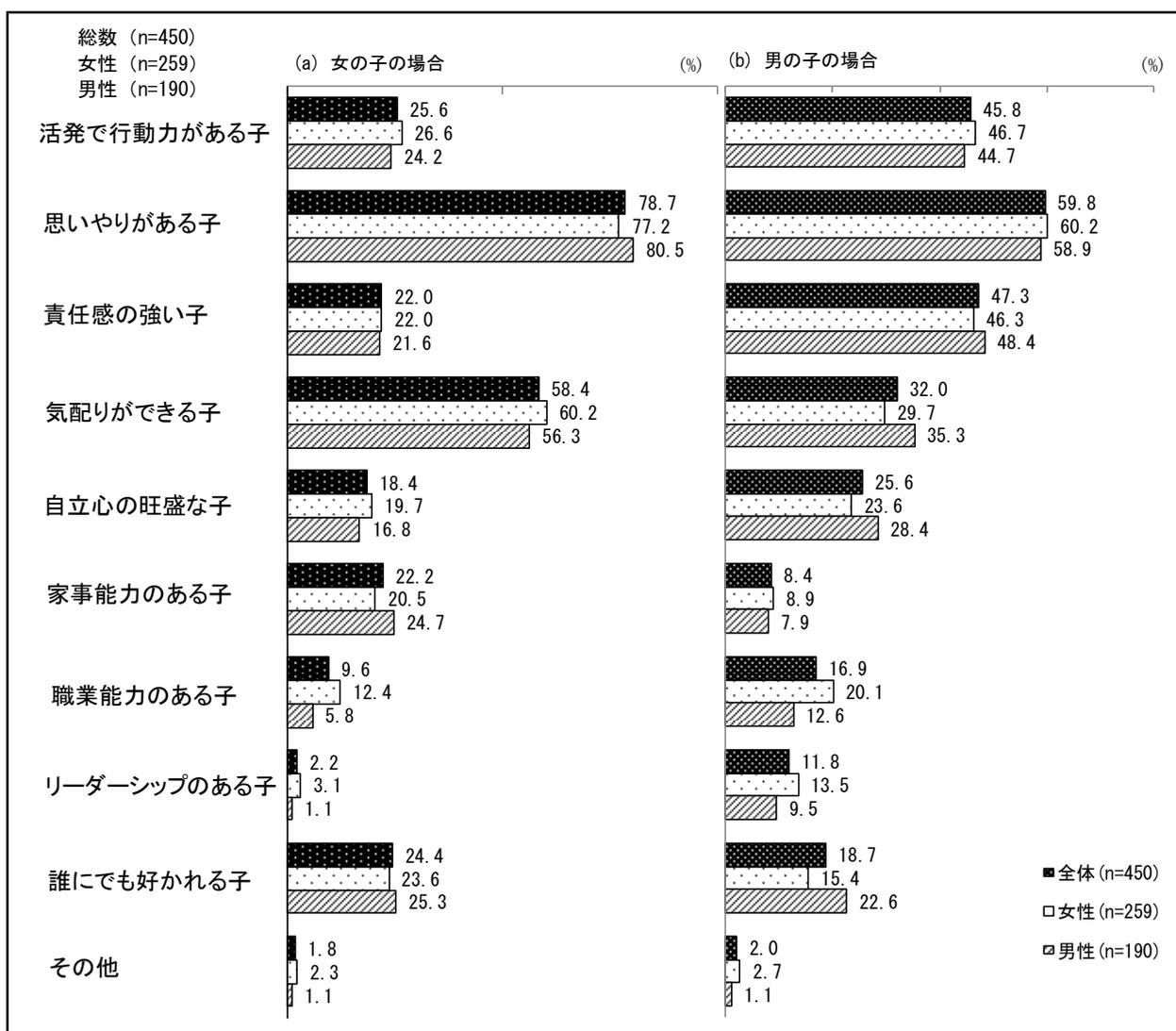
大人（親）が期待する子どもの姿に男女差が既にあることが調査結果から分かります。

“(a) 女の子の場合”は、女性・男性とも「思いやりがある子」が最も多く、7割を超えています。次いで「気配りができる子」が5割以上となっています。

一方、“(b) 男の子の場合”に対しては、女性・男性とも「思いやりがある子」が最も多いですが、その次は、女性では、「活発で行動力がある子」、「責任感の強い子」の順に多く、いずれも4割以上となっています。また、男性では、「責任感の強い子」、「活発で行動力がある子」の順に多く、いずれも4割以上となっています。

女の子には、「家事能力のある子」が期待されていますが、男の子の項目では、「家事能力のある子」は最も低い数値となっています。

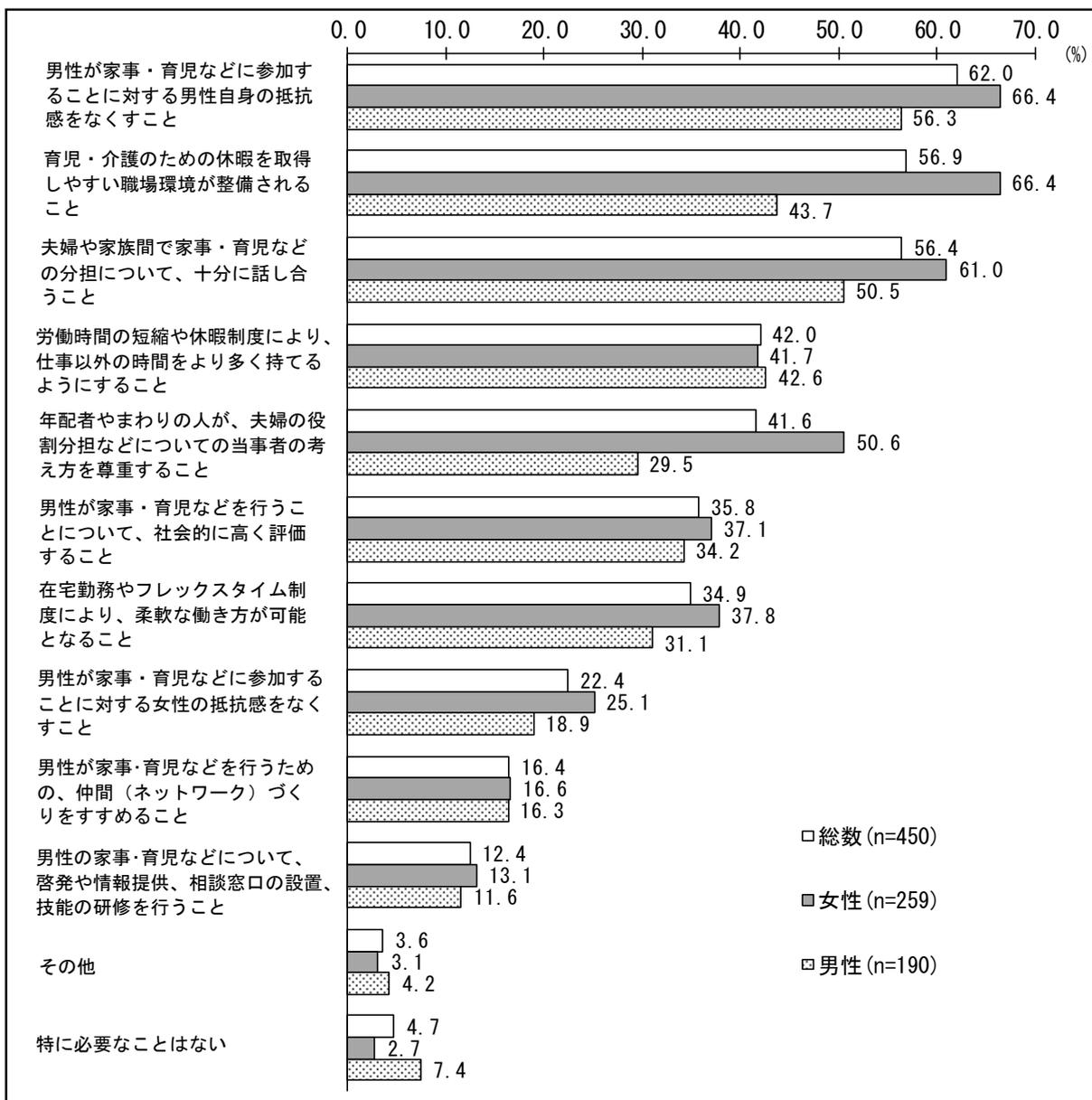
また、女の子の項目において、「リーダーシップのある子」の数値が最も低い結果となっています。



## ■ 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するために必要なこと

「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(62.0%)が最も多く、次いで「育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整備されること」(56.9%)、「夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと」(56.4%)が続きます。

このほか、「労働時間の短縮や休暇制度により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」(42.0%)や「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」(41.6%)も多くあがっています。

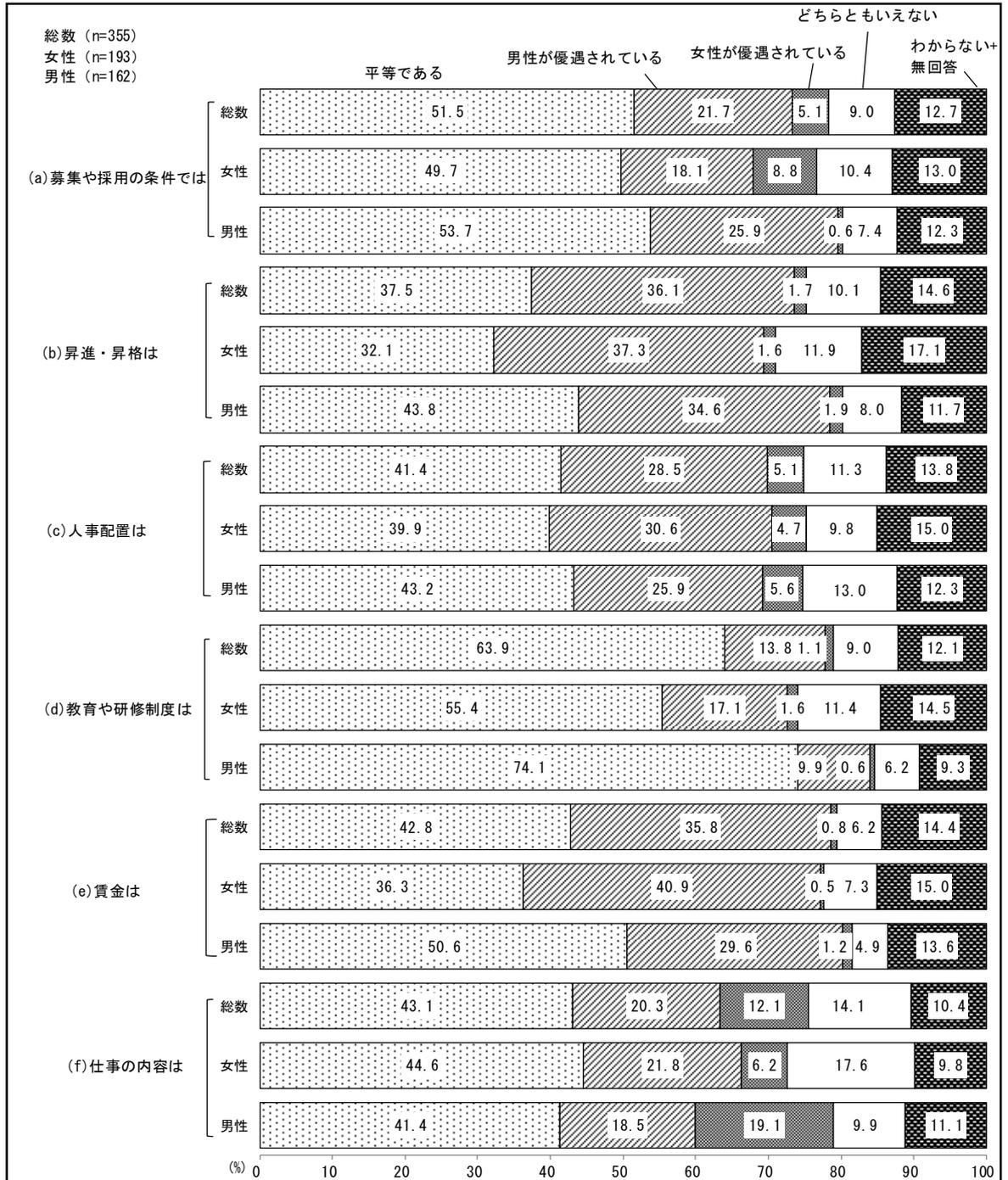


### (3) 職業

#### ■職場での男女平等

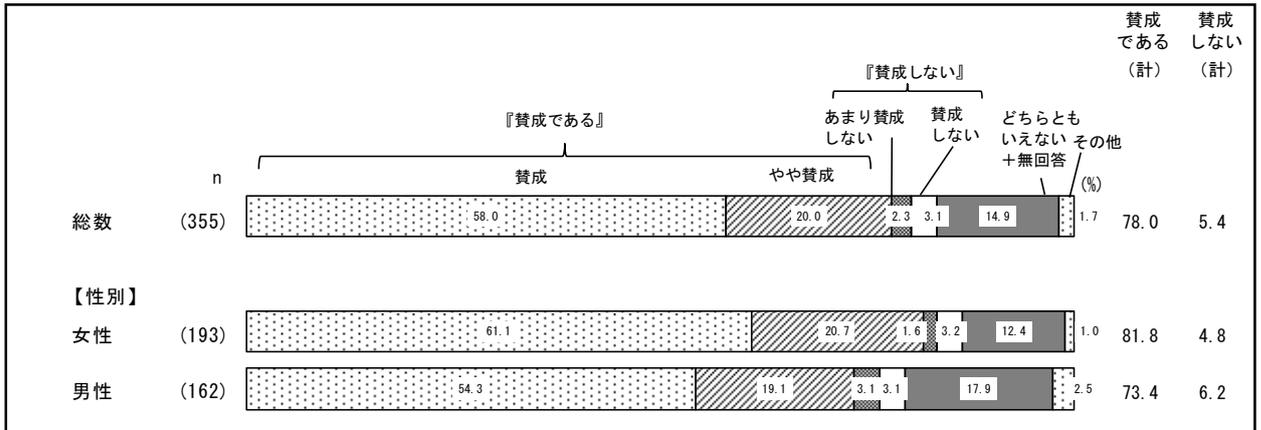
男女とも「平等である」と回答した人が最も多いのは、(d)教育や研修制度(女性55.4%、男性74.1%)で、次いで(a)募集や採用の条件(女性49.7%、男性53.7%)となっています。

一方、最も少ないのは、(b)昇進・昇格(女性32.1%、男性43.8%)で、次いで(c)人事配置(女性39.9%、男性43.2%)が続いています。



■女性が管理職に昇進することについて

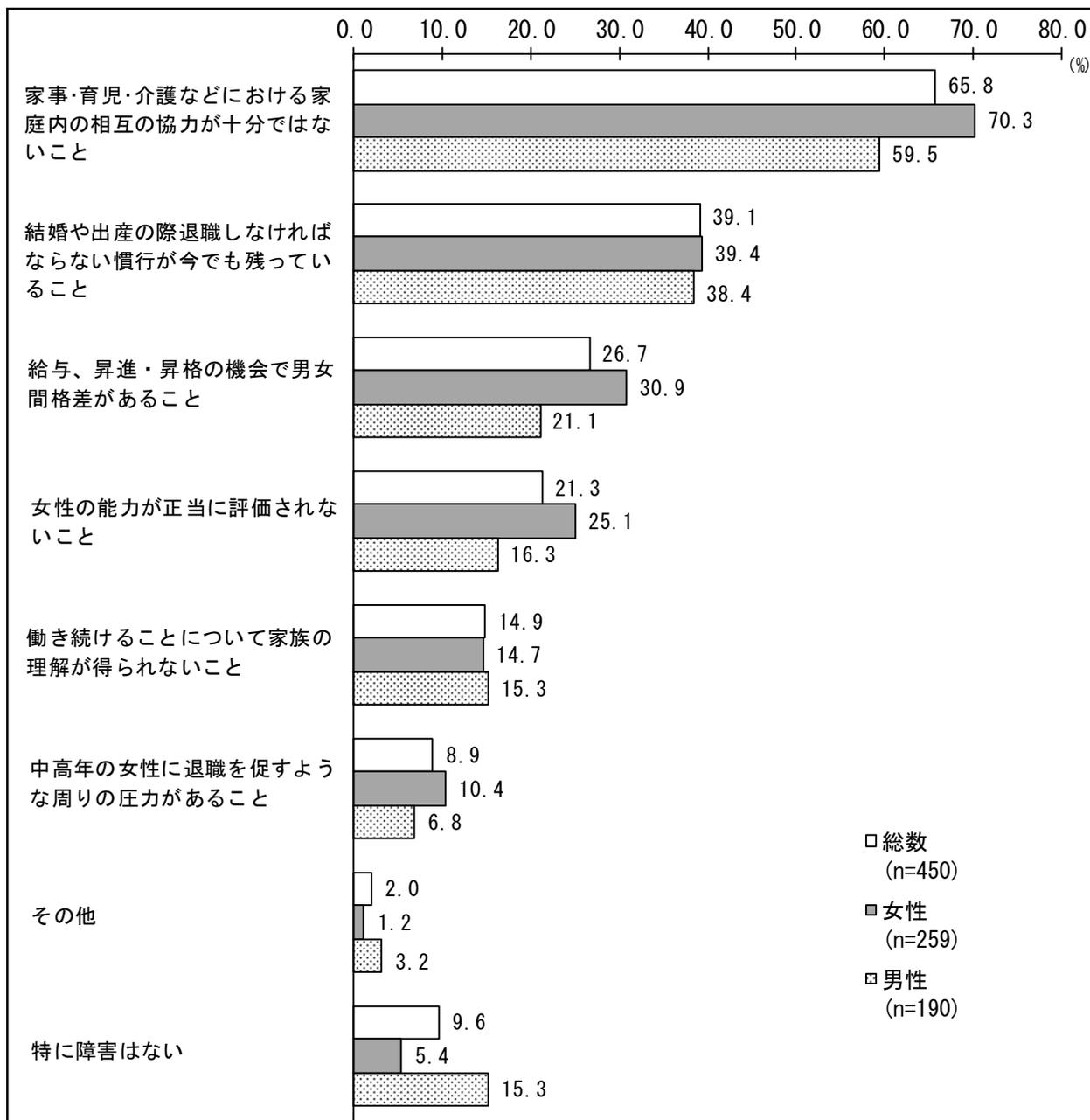
女性が管理職に昇進することについて、女性では81.8%、男性では73.4%が『賛成である（計）』としており、合計では78.0%と8割近い割合となっています。



## ■女性が働き続ける上での障害

男女とも、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」(女性 70.3%、男性 59.5%) が最も高く、次いで「結婚や出産の際退職しなければならない慣行が今でも残っている」(女性 39.4%、男性 38.4%) の順となっています。

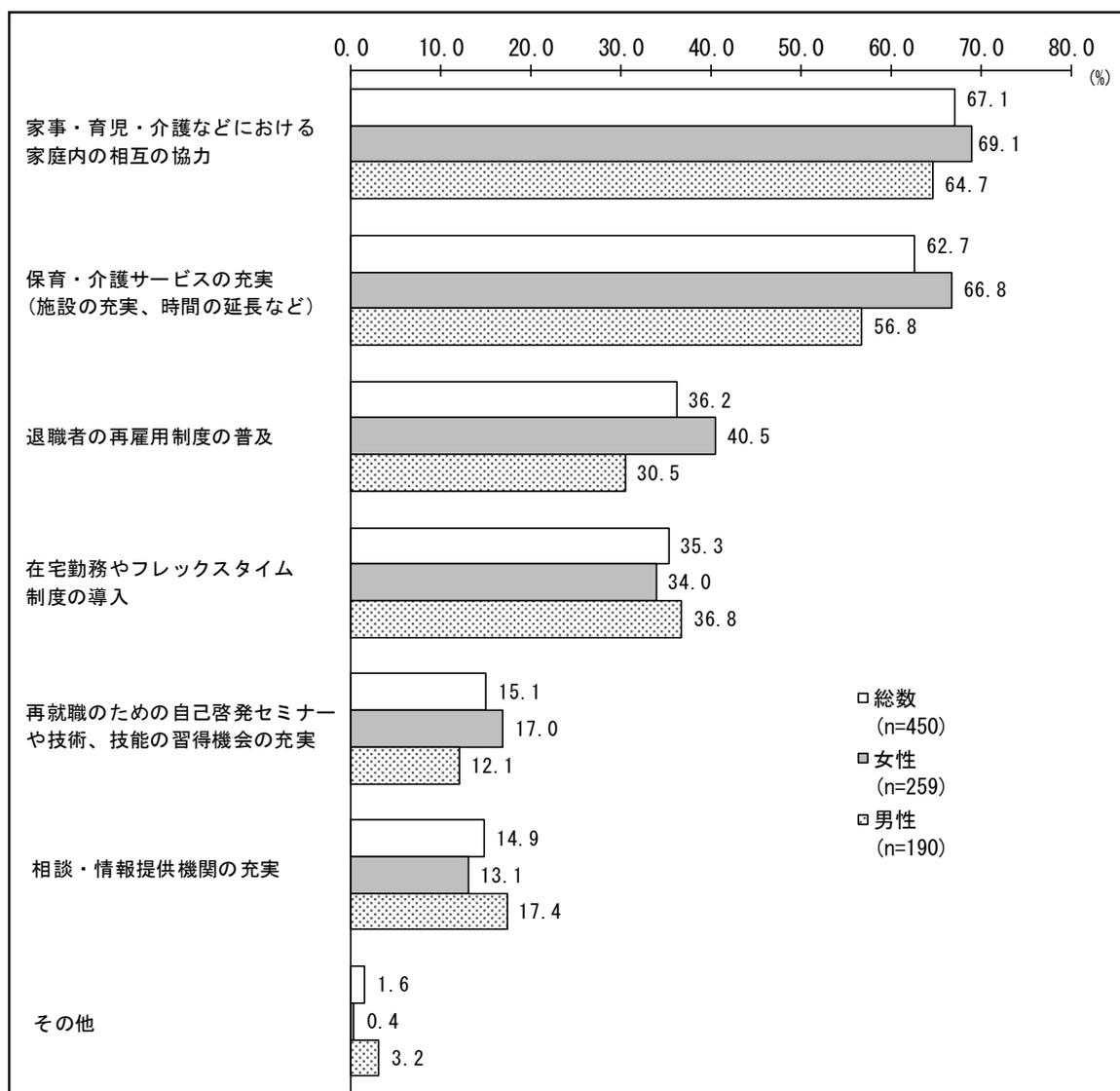
男女の差が大きいものとして、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」(10.8ポイント差) で女性が男性のポイントを大きく上回っています。



## ■女性の再就職に必要なこと

男女ともに「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」（女性 69.1%、男性 64.7%）が最も多くなっています。「保育・介護サービスの充実（施設の充実、時間の延長など）」（女性 66.8%、男性 56.8%）が続いています。

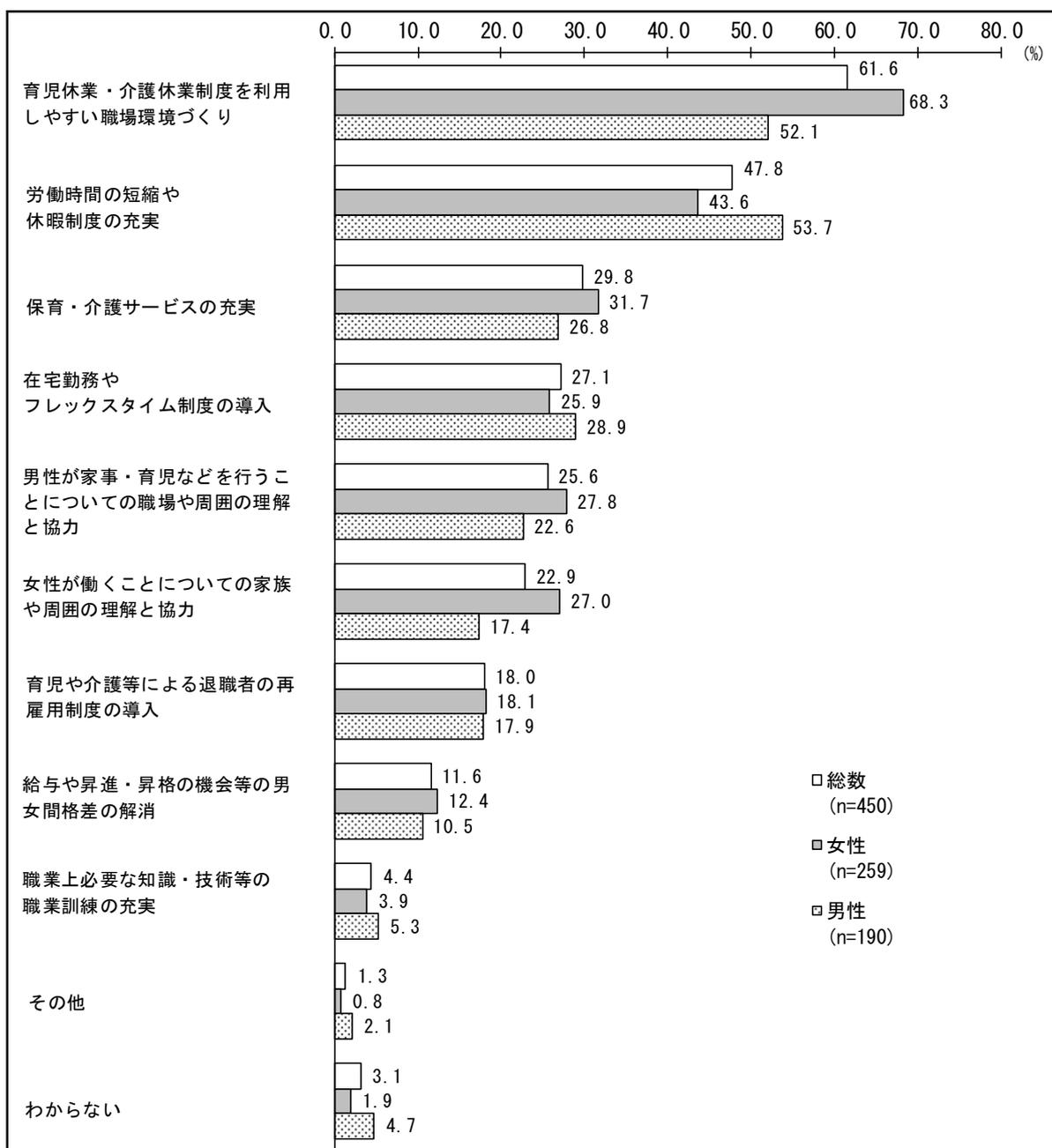
「保育・介護サービスの充実（施設の充実、時間の延長など）」「退職者の再雇用制度の普及」は、女性の方が10.0ポイント多く、「相談・情報提供機関の充実」は、男性の方が4.3ポイント多くなっています。



## ■男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要なこと

「男女が共に仕事と家庭を両立するために必要なこと」として、男女とも、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり」（女性 68.3%、男性 52.1%）が最も高くなっています。次いで「労働時間の短縮や休暇制度の充実」（女性 43.6%、男性 53.7%）、「保育・介護サービスの充実」（女性 31.7%、男性 26.8%）が続いています。

男女の比較では、「労働時間の短縮や休暇制度の充実」（女性 43.6%、男性 53.7%）と「在宅勤務やフレックスタイム制度の導入」（女性 25.9%、男性 28.9%）の2項目で男性が女性のポイントを上回っています。

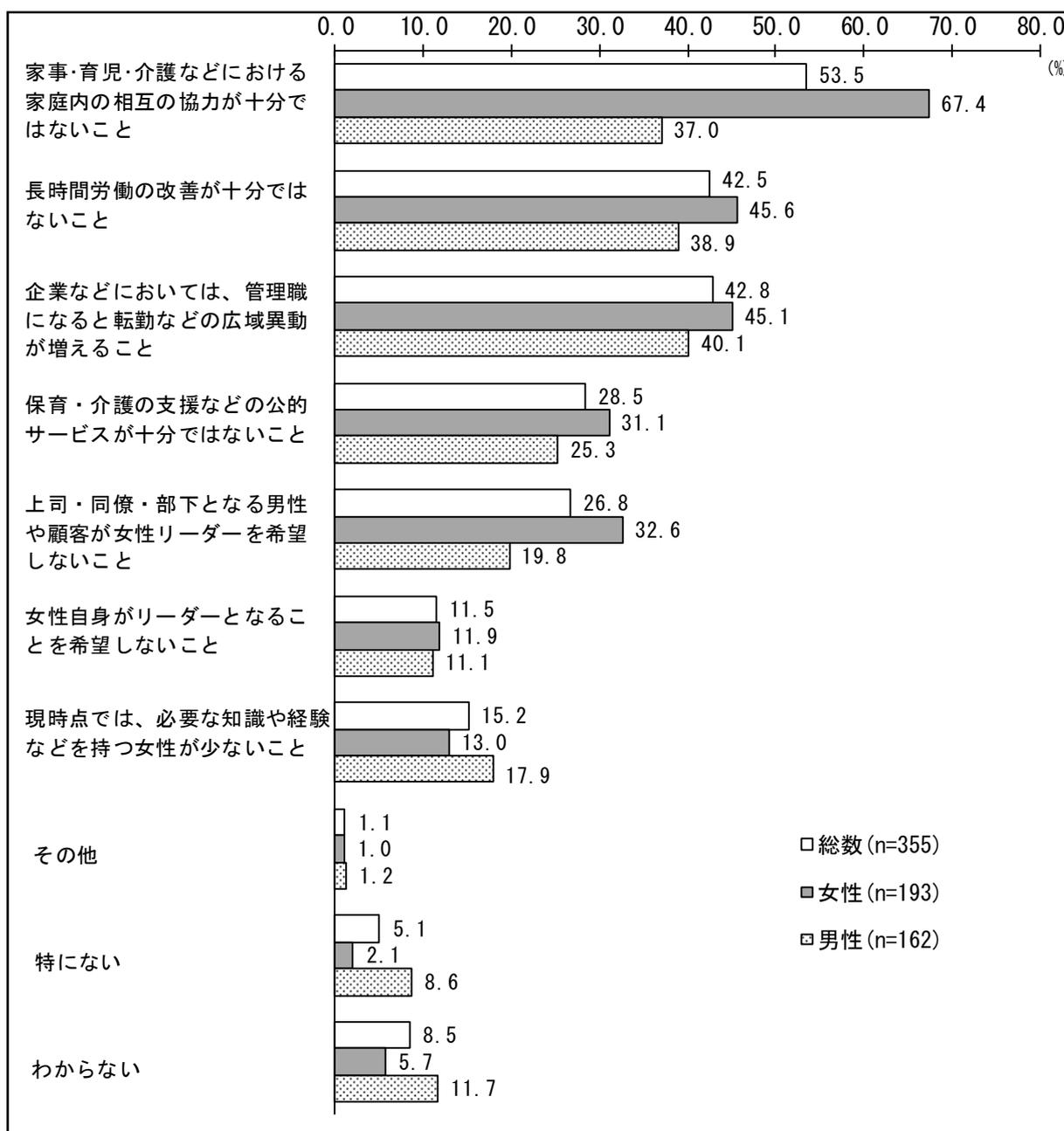


#### (4) 女性の社会参画

##### ■女性のリーダーを増やす上での障害

女性では「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」（女性 67.4%、男性 37.0%）が最も多く、男性では「企業などにおいては、管理職になると転勤などの広域異動が増えること」（女性 45.1%、男性 40.1%）が最も多くなっています。

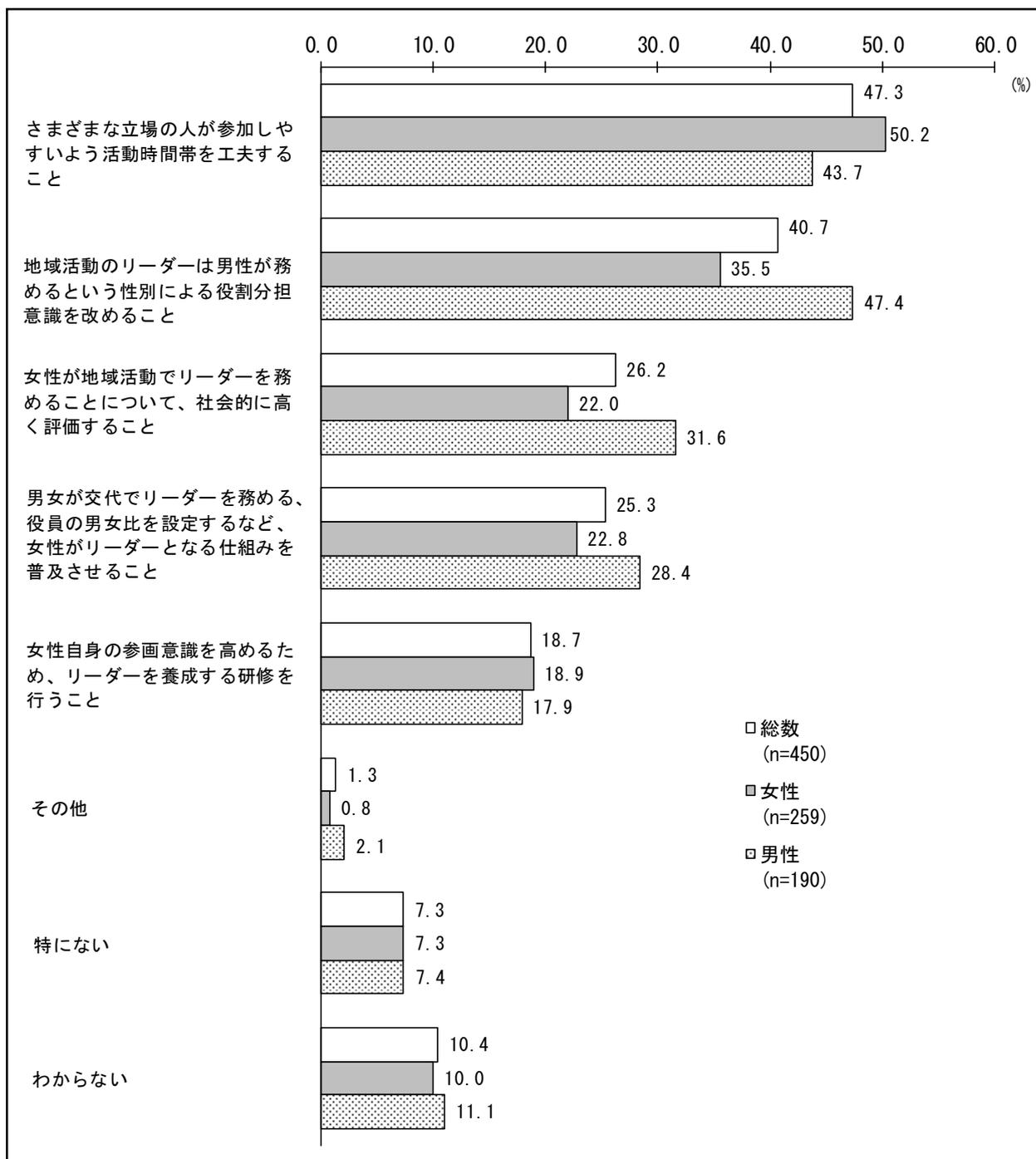
男女差では、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」（30.4 ポイント差）で女性が男性のポイントを大きく上回っており、「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」（4.9 ポイント差）で男性のポイントが女性のポイントを上回っています。



## ■女性が方針決定の場に参画するために必要なこと

女性では、「さまざまな立場の人が参加しやすいよう活動時間帯を工夫すること」(50.2%)が最も多く、次いで「地域活動のリーダーは男性が務めるという性別による役割分担意識を改めること」(35.5%)となっています。

男性では「地域活動のリーダーは男性が務めるという性別による役割分担意識を改めること」(47.4%)が最も多く、次いで「さまざまな立場の人が参加しやすいよう活動時間帯を工夫すること」(43.7%)となっています。



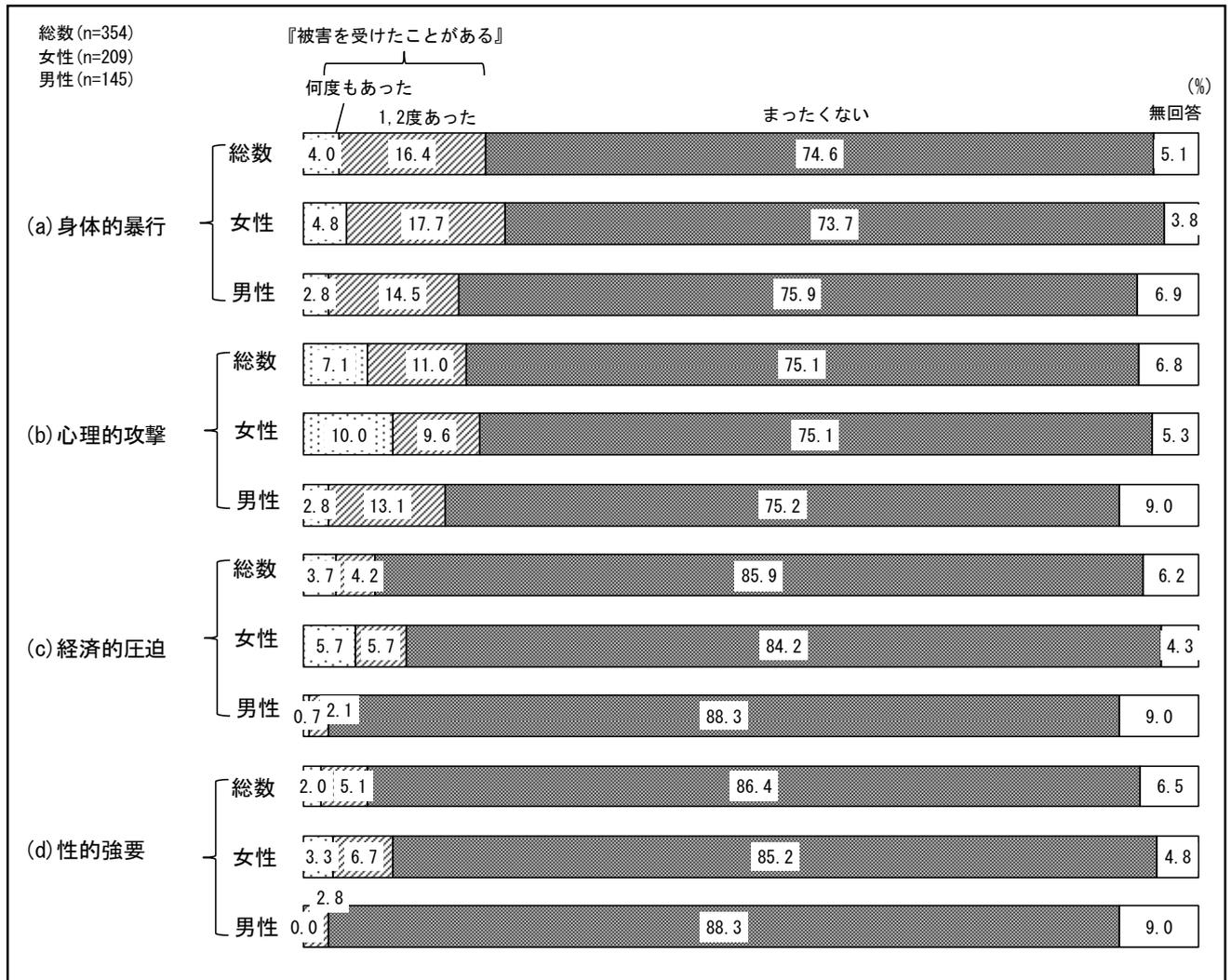
## (5) ドメスティック・バイオレンス(DV)等

### ■配偶者・交際相手からの被害経験の有無

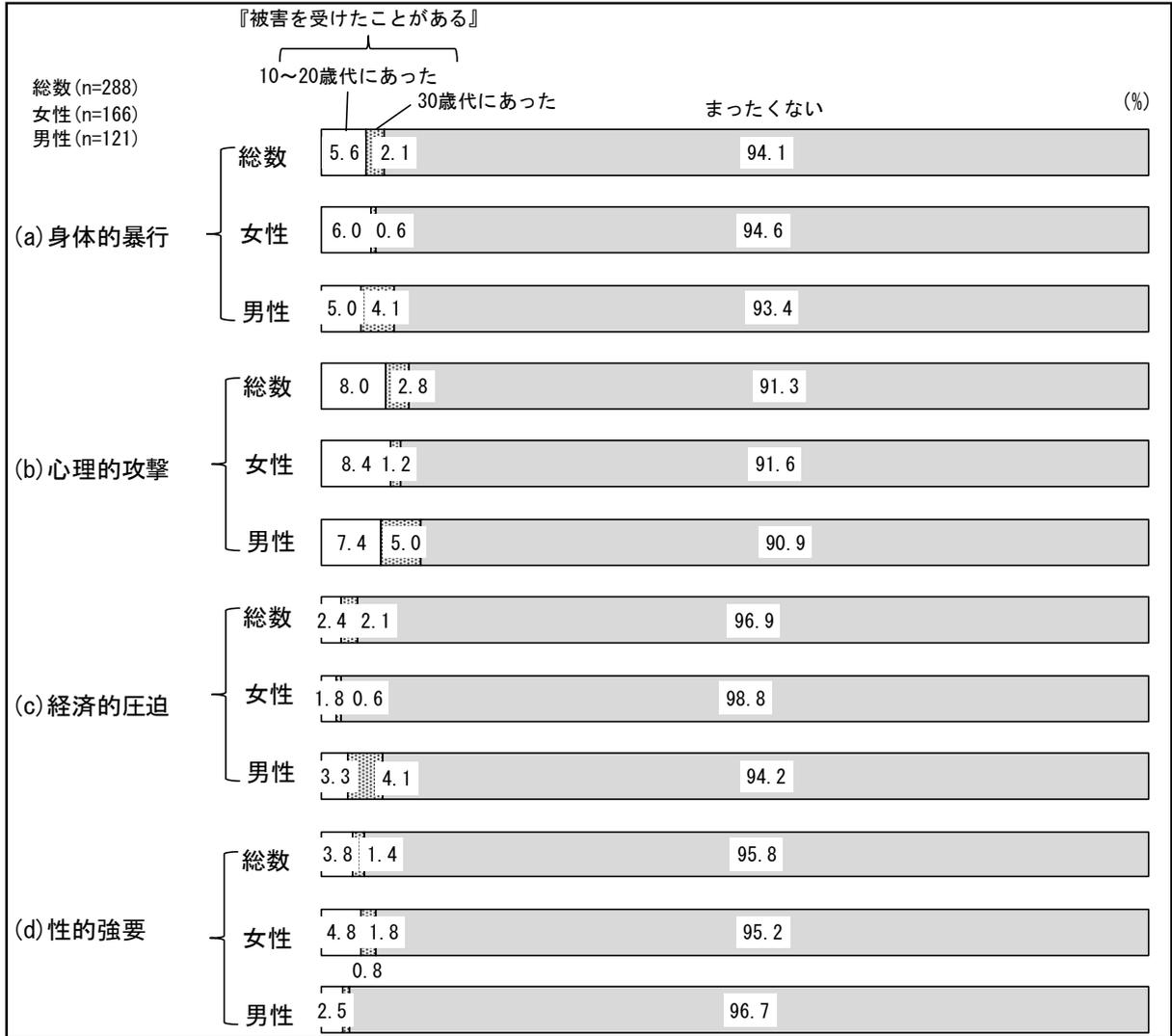
配偶者からの身体的暴行の被害経験のある人は、女性では209人中47人(22.5%)、男性では145人中25人(17.3%)となっています。一方で交際相手からの身体的暴行の被害経験のある人は、女性では166人中11人(6.6%)、男性では121人中11人(9.1%)となっており、結婚後は総数における被害経験者の割合が高くなっています。

どの項目においても、交際相手からの被害経験よりも、配偶者からの被害経験の割合が上回っており、結婚後の被害経験の割合が高くなっています。

### 配偶者からのこれまでの被害経験の有無

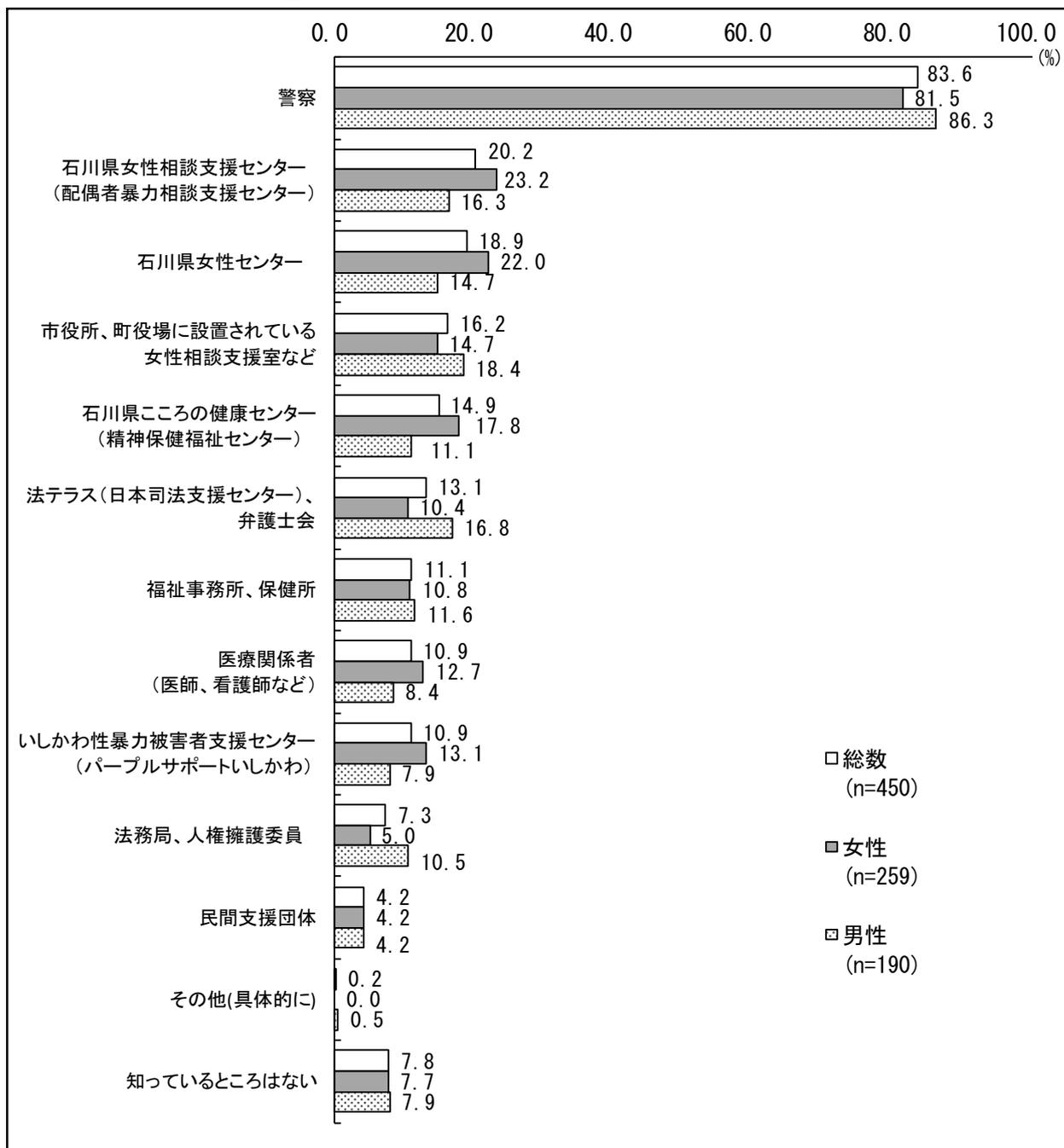


## 交際相手からの被害経験の有無



## ■DVを受けたときに相談できる機関・関係者の周知状況

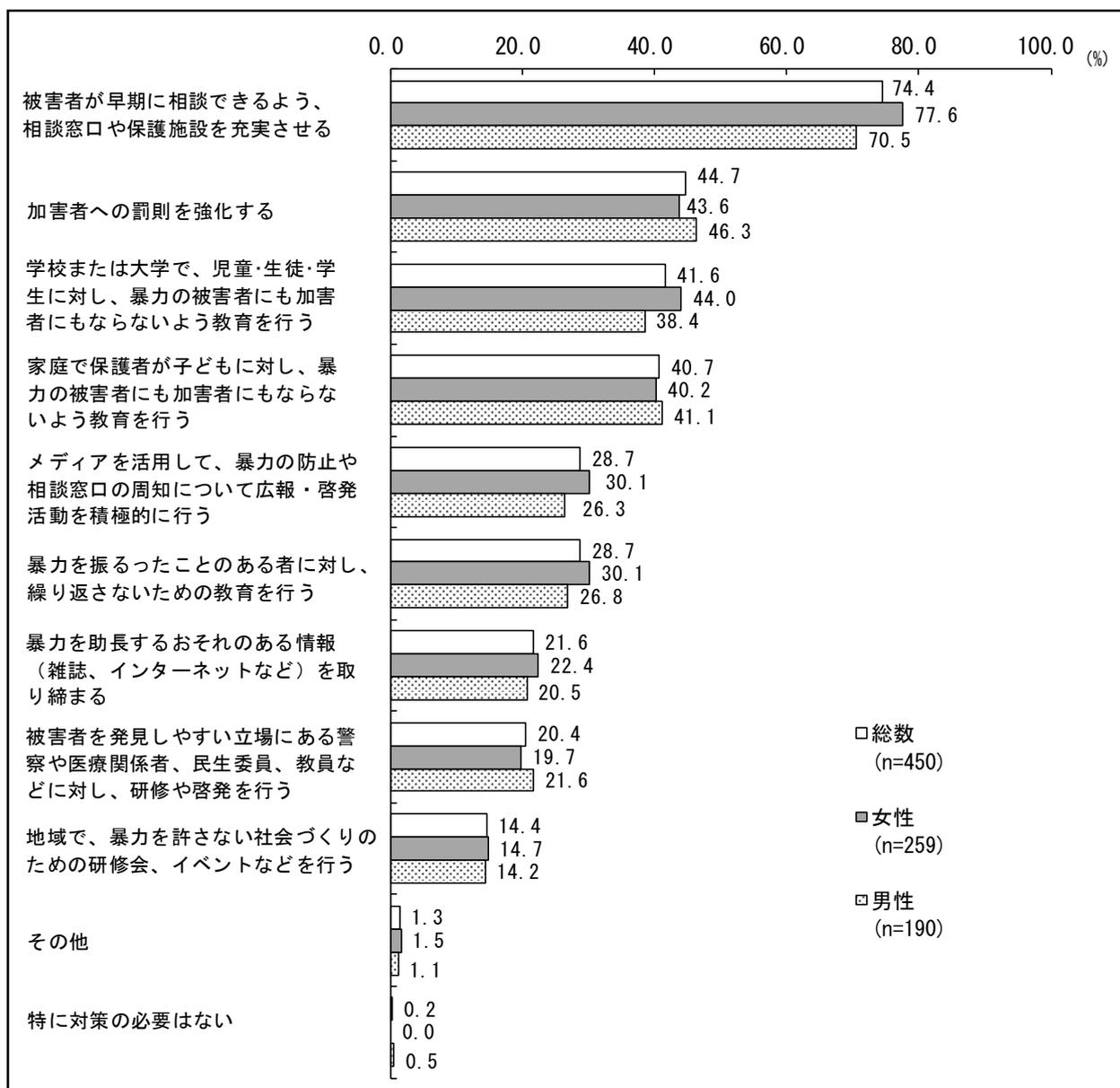
DVを受けたときに相談できる機関・関係者で知っていたものについては、「警察」(女性81.5%、男性86.3%)が最も多く、次いで、「石川県女性相談支援センター(配偶者暴力相談支援センター)」(女性23.2%、男性16.3%)、「石川県女性センター」(女性22.0%、男性14.7%)、「市役所、町役場に設置されている女性相談支援室など」(女性14.7%、男性18.4%)の順となっています。



## ■DVや性暴力等の暴力をなくすために必要なこと

全体では、「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる」（女性 77.6%、男性 70.5%）が最も多く、次いで「加害者への罰則を強化する」（女性 43.6%、男性 46.3%）、「学校または大学で、児童・生徒・学生に対し、暴力の被害者にも加害者にもならないよう教育を行う」（女性 44.0%、男性 38.4%）の順となっています。

男女の差が大きいものとしては、「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる」（7.1ポイント差）と女性のポイントが多くなっています。

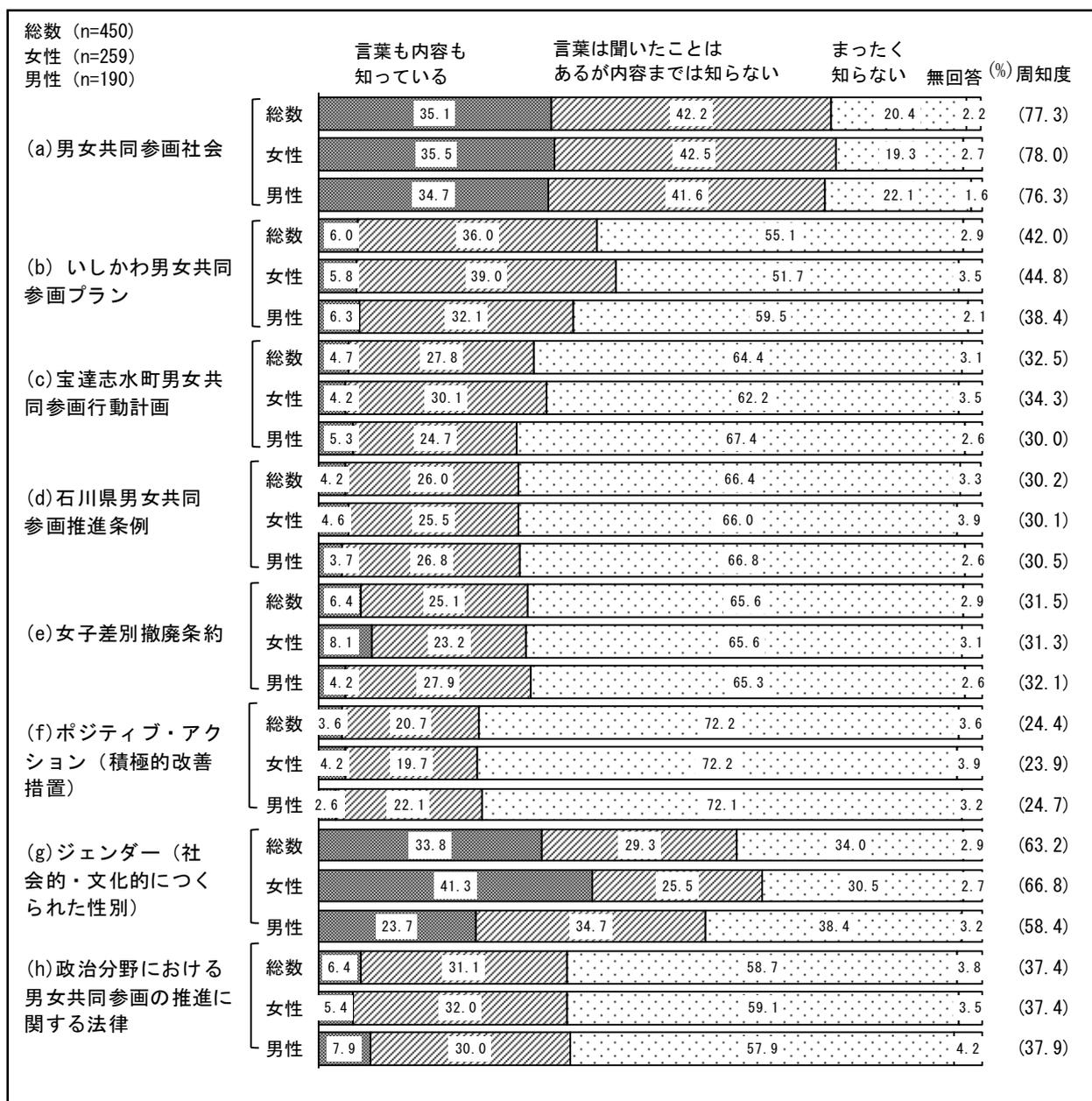


## (6) 男女共同参画社会の実現に向けて

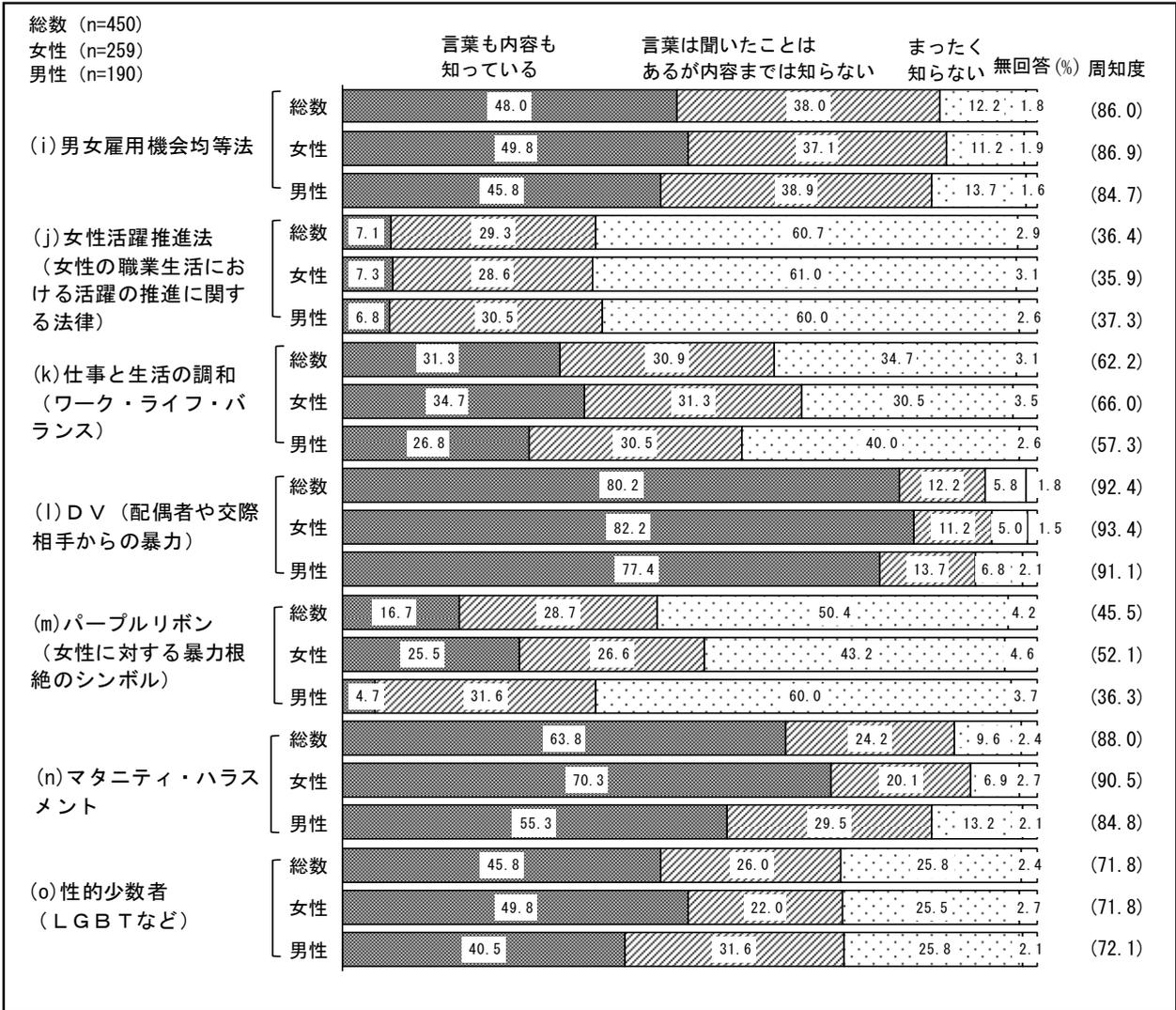
### ■男女共同参画に関する用語の周知度

“(a) 男女共同参画社会”という言葉の周知度は、女性では78.0%、男性は76.3%と男女どちらもほぼ同じ割合となっています。

全体では、“(l) DV(配偶者や交際相手からの暴力)”が最も周知度が高く(女性93.4%、男性91.1%)、次いで“(n) マタニティ・ハラスメント”(女性90.3%、男性84.7%)、“(i) 男女雇用機会均等法”(女性86.9%、男性84.7%)となっており、8割を超えています。

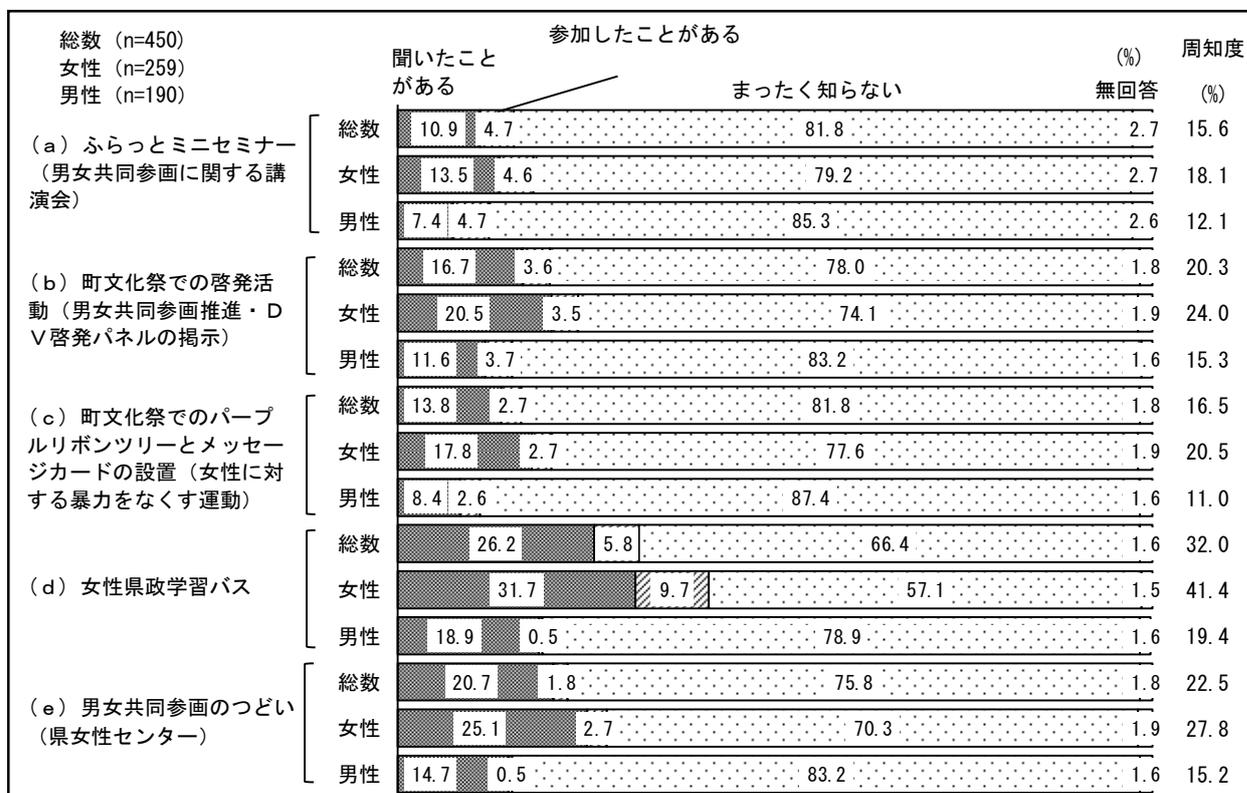


※『周知度』は調査票選択肢の「言葉も内容も知っている」と「言葉は聞いたことはあるが内容までは知らない」を合計したものの。



## ■男女共同参画に関する事業の周知度

町や県の男女共同参画に関する事業の周知度について、全体では、“(d)女性県政学習バス”（女性 41.4%、男性 19.4%）の周知度が最も高く、次いで、“(e)男女共同参画のつどい（県女性センター）”（女性 27.8%、男性 15.2%）、“(b)町文化祭での啓発活動（男女共同参画推進・DV啓発パネルの掲示）”（女性 24.0%、男性 15.3%）の順となっています。



※『周知度』は調査票選択肢の「聞いたことがある」と「参加したことがある」を合計したものの。

## ■男女共同参画社会の実現のために行政に対して望むこと

全体では「子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスを充実する」(46.4%)が最も多く、次いで「学校などで男女共同参画の理解を深める教育・学習を充実する」(43.1%)が続いています。

男女の差があるものについては、「子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスを充実する」は女性が19.1ポイント、「学校などで男女共同参画の理解を深める教育・学習を充実する」は男性が6.3ポイント多くなっています。

